

## 米国 高水準の貿易赤字が続く状況は変わらず (06年4月貿易統計)

発表日：06年6月9日(金)

～ドルの上昇余地は限定的～

第一生命経済研究所 経済調査部

桂畑 誠治(かつらはた せいじ)

 (03-5221-5001 : [seiji@dlri.dai-ichi-life.co.jp](mailto:seiji@dlri.dai-ichi-life.co.jp))

### 貿易収支 (U.S. International Trade in Goods and Services)

	貿易収支			輸出		輸入			
	Balance	財 Goods	サービス Services	Exports	財 Goods	Imports	財 Goods		
05/05	▲566.29	▲620.73	+54.44	+0.0	(+9.5)	▲0.3	▲0.2	(+11.9)	▲0.3
05/06	▲584.19	▲638.92	+54.73	+0.6	(+12.5)	+0.5	+1.5	(+10.2)	+1.6
05/07	▲580.80	▲635.97	+55.17	+0.6	(+11.4)	+0.6	+0.2	(+11.9)	+0.1
05/08	▲587.42	▲643.61	+56.19	+1.4	(+12.3)	+1.8	+1.3	(+11.1)	+1.5
05/09	▲649.68	▲707.88	+58.20	▲1.5	(+8.6)	▲3.1	+2.7	(+14.8)	+2.9
05/10	▲665.98	▲725.73	+59.75	+2.1	(+9.2)	+2.8	+2.3	(+13.9)	+2.7
05/11	▲640.02	▲697.14	+57.12	+1.3	(+11.1)	+2.0	▲0.7	(+10.5)	▲0.9
05/12	▲641.74	▲702.19	+60.45	+2.3	(+10.9)	+2.5	+1.6	(+13.4)	+1.6
06/01	▲662.17	▲722.25	+60.08	+2.0	(+12.7)	+2.5	+2.4	(+14.2)	+2.7
06/02	▲626.61	▲680.29	+53.68	▲0.8	(+11.9)	▲0.8	▲2.5	(+10.8)	▲3.2
06/03	▲618.62	▲677.15	+58.53	+1.8	(+12.7)	+2.0	+0.7	(+13.3)	+0.9
06/04	▲634.26	▲694.69	+60.43	▲0.2	(+9.8)	▲0.6	+0.7	(+10.3)	+0.8

(注1) 季節調整値。貿易収支の単位は億ドル。

(注2) 輸出入の数字は前月比。カッコ内は前年同月比。

	輸出					輸入				
		産業資材 *1	資本財 *2	自動車 *3	消費財 *4		産業資材	資本財	自動車	消費財
05/12	+2.7	+3.2	+1.5	+3.3	+4.5	+1.6	+0.5	+2.0	+1.9	+3.6
06/01	+2.1	+4.6	+1.8	▲1.1	▲0.6	+2.6	+1.9	+3.5	+5.6	▲0.1
06/02	▲0.7	▲2.0	+0.6	+1.2	▲1.0	▲3.1	▲1.3	▲4.7	▲4.7	▲2.3
06/03	+2.0	+7.4	+0.0	▲4.2	+2.1	+0.8	▲6.3	+5.8	▲1.2	+6.4
06/04	▲0.6	+0.2	▲0.5	+1.0	▲4.0	+0.9	+5.2	+0.3	+1.9	▲3.5

(注) 季節調整前月比伸び率。

\*1: Industrial supplies and materials

\*2: Capital goods, except automobiles

\*3: Automobiles vehicles, parts and engines

\*4: Consumer goods, except automobiles

	輸出					輸入						
		カナダ	中南米	EU	太平洋工業国 日本		カナダ	中南米	EU	太平洋工業国 日本		
05/11	+13.3	+10.4	+13.5	+12.1	+12.6	+8.9	+11.5	+15.3	+14.4	+10.5	+7.5	+2.7
05/12	+11.8	+10.9	+14.7	+7.3	+10.2	+12.0	+13.9	+25.8	+17.3	+3.7	+10.7	+4.5
06/01	+13.4	+10.9	+18.9	+7.8	+15.9	+10.9	+17.9	+20.0	+23.6	+13.5	+12.6	+7.0
06/02	+13.3	+9.5	+15.0	+7.9	+11.5	+9.5	+11.3	+15.6	+17.7	+3.5	+6.1	+5.9
06/03	+14.9	+11.9	+21.2	+12.6	+15.7	+8.4	+13.7	+10.5	+19.4	+11.3	+13.9	+1.5
06/04	+8.7	+5.6	+10.5	+6.5	+10.4	▲2.6	+8.7	+7.7	+7.5	+4.7	+10.8	+3.8

(注1) 未季調前年比伸び率。

(注2) 中南米はメキシコを含む(原統計の「中南米」は含まない)。

### 634.26億ドルの赤字に拡大

06年4月の米国の貿易収支(サービスを含む国際収支ベース、季節調整済)は、634.26億ドルの赤字(前月比+2.5%)と、3ヵ月ぶりに増加した。市場コンセンサスの▲650億ドルを下回ったものの、高水準の貿易赤字が持続している。サービス収支の黒字額が拡大したが、それを上回るペースで財収支の赤字額が拡大した。輸出は、自動車が増加したものの、消費財、自動車を除く資本財の減少により前月比▲0.2%と縮小した。一方、輸入は消費財が減少したが、エネルギー関連の増加によって産業資材、輸入車需要の強い自動車が増加したため同+0.7%と2ヵ月連続のプラスとなった。原油輸入価格は輸入量が2億9384.4万バレルに減少したが、輸入価格が1バレル=56.82ドルと上昇したため前月比+1.1%となった。

今回、財のデータが2003年まで、サービスのデータは1997年まで遡って改定された。今回の改定は、GDPの年次改定のときに反映される。

## 対中赤字が再び拡大

地域別収支では、対中国が▲170億ドル（前年比+15.3%）と前月から赤字額が拡大し、29ヵ月連続で地域別で最大の赤字国となった（貿易赤字全体の26.6%に拡大）。対NAFTAが▲111億ドル（同+12.9%）、対日は▲78億ドル（同+7.9%）、対NIESは▲7億ドル（同▲11.8%）と赤字額が増加した。一方、対欧州は▲94億ドル（同+1.5%）と縮小した。また、対OPECは▲81億ドル（同+12.1%）と変わらずとなった。

## ドルの上値の重い展開が予想される

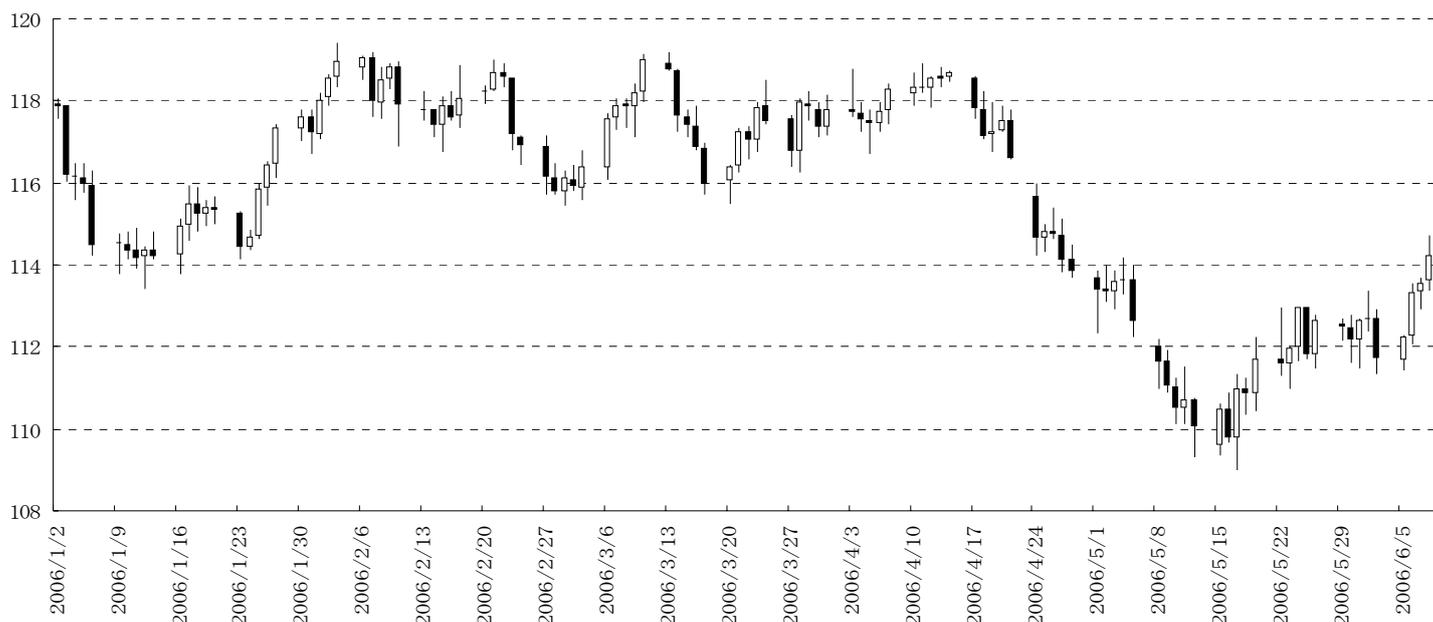
ドル円相場については、足元で米国での利上げ継続観測からドルがやや強含んでいる。既に、1回の米国の利上げは織り込まれているとみられ、2回以上の利上げが実施されるとの見方が台頭しない限りドル売り材料にはなり難いであろう。その場合でも、米国景気の失速懸念の強まりからドルの上値は限定的なものにとどまると考えられる。一方で、利上げ打ち止めとの見方が強まれば、日本のゼロ金利解除もあり金利差縮小観測からドルは売られよう。

遅くとも秋口までには利上げ継続懸念が払拭されるとみられ、再び貿易赤字も材料になると見込まれる。米貿易赤字は、原油価格の高止まりや成長率格差によって高水準で推移すると予想される。このような中、今年は中間選挙の年であり巨額の経常赤字が材料視され易いこと、さらに中間選挙に絡み元切り上げ圧力が強まること、米財務省高官が日本の口先介入に不快感を示すなど巨額の経常黒字を抱えた日本に対する通貨政策に変化の兆しがみられること等から、円には上昇圧力が掛かり易い。

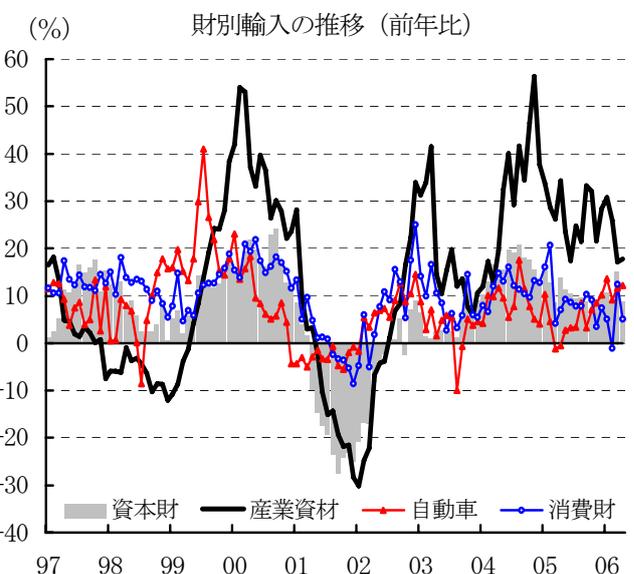
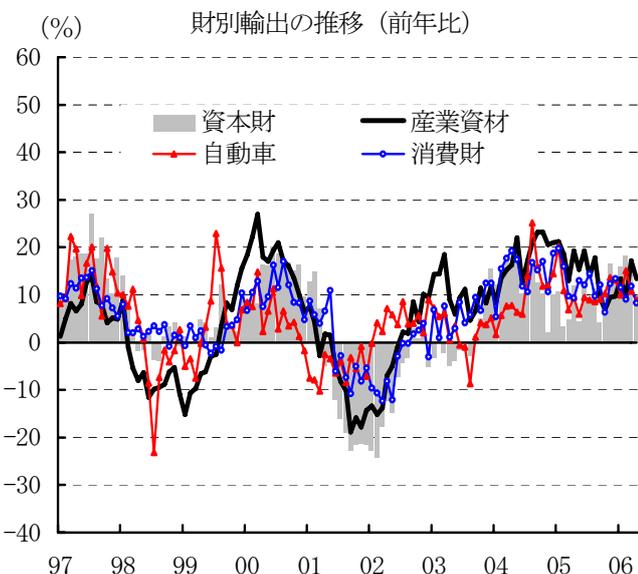
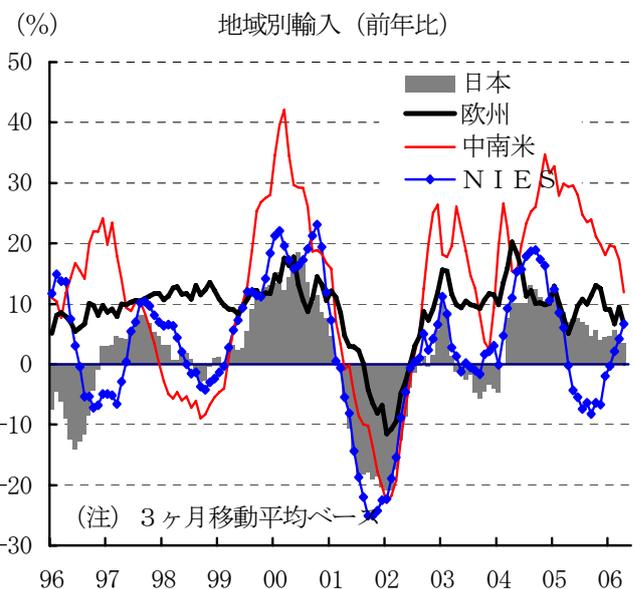
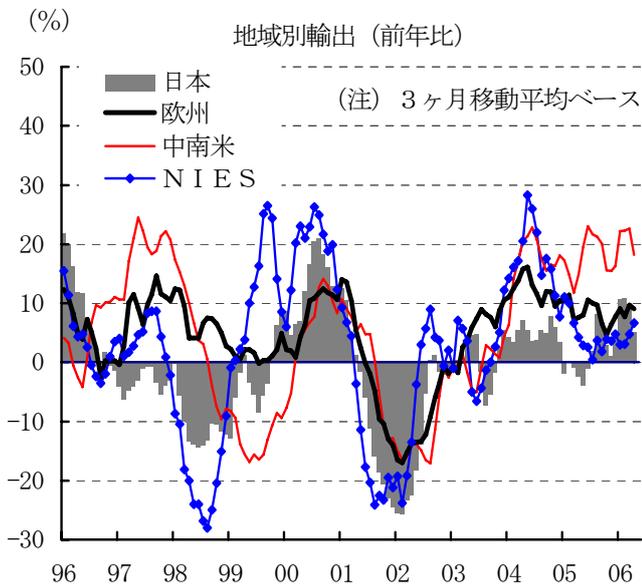
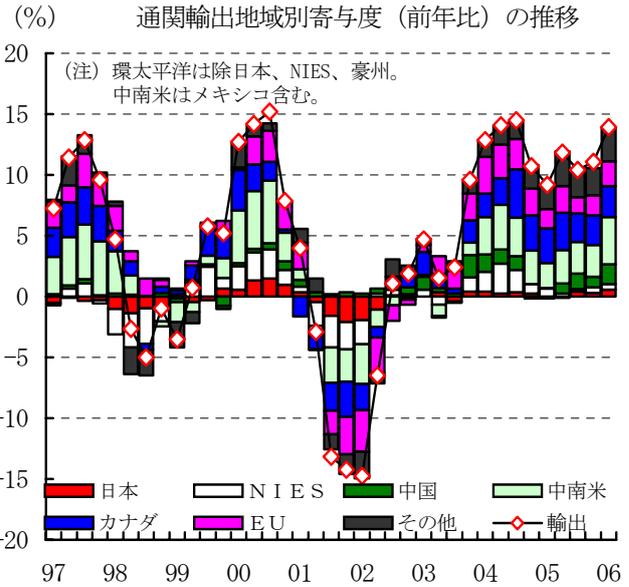
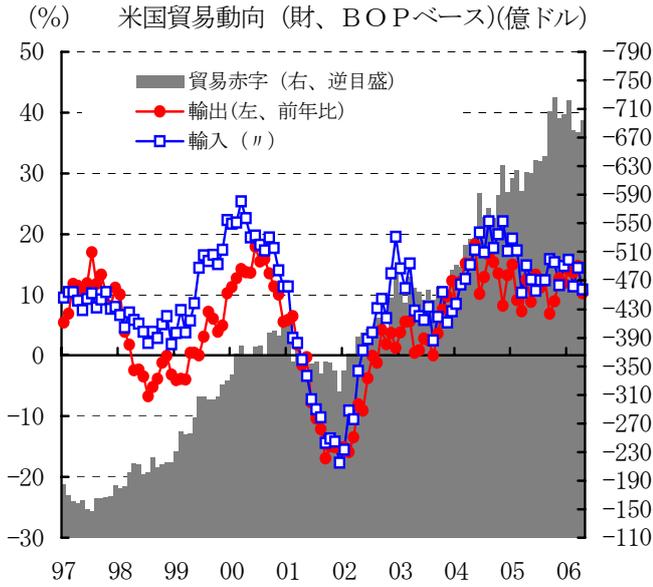
テクニカルによる円安の目処は、114.37～115.08円、116.10円。一方、円高の目標は、109.21円、108.77円、108円、106.33円。

(円/ドル)

ドル円相場の推移



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。